



ガバナーメッセージ 基本的教育と識字率向上月間／ロータリーの友月間

国際ロータリー
第2660地区 ガバナー

立野 純三
(大阪RC)



改めて「ロータリーの友」7月号を読んでみて、非常に内容の濃い記事が多い事に感心しました。

まず、ラビンドランRI会長のPay IT Forwardの考え方に心を打たれました。

「私たちは皆多くの人々のお蔭で今の自分があるのです。ロータリーの活動に一生懸命なのは、自分が大勢の人に助けられてきたという思いがあるからです。恩返しにのチャンスに恵まれない人もいます。恩返しする唯一の方法は、誰かを助けることです。」とおっしゃっています。

また「今の私を形づくったのはロータリーであり、今、ロータリーにしていることは、ロータリーが私のためにしてくれたことの1%にすぎない」とも言われています。

私自身にも、今年一年このような大きなチャンスを与えてもらったのかもしれない。

ラビンドランRI会長の考え方には到底近づくことは出来ませんが、せめてこの与えられたチャンスを精一杯いかして、ロータリー活動に明け暮れて、ガバナーの任期を終えた時、何かを得ることができれば幸せだと思っております。

私が、以前ボランティア団体のセーブ・ザ・チルドレンで活動をしておりました時、ベトナムで恵まれない子供達の栄養改善と識字率の向上プロジェクトに参加したのですが、多くの子供達が日本の子供達と違い一家の働き手として必要とされておりましたので、学校に行くことが出来ないのです。

まず最初に取り組まなければならないのは、一家の生活の改善です。子供が学校に行ける生活環境を整備するために、援助をする必要があります。そして、次の段階として学校の建設、先生の確保、教科書や文具を揃える等の十分な準備をすることにより、子供達は学校に行けるようになります。

現地にスタッフが常駐し、常にサポートをすることによって生活環境が元に戻ることなく、定着するまで継続的に援助をすることも大切です。

世界では、学校教育を受けられない子供達が6,700万人、読み書きが出来ない15歳以上の人が7億7,500万人以上います。奉仕(プレゼント)は、一過性ではなく継続的に行う必要があると思います。

奉仕の源泉であるロータリー財団へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。